

西之表市と防衛省との協議の場報告（9）

11月22日（火）に第10回協議の場を開催しましたので、概要をご報告します。

第10回協議の場

【日時】令和4年11月22日（火）10:30から

【場所】西之表市役所

【概要】（以下市＝西之表市、防＝防衛省）

「馬毛島基地（仮称）建設事業に係る環境影響評価準備書に対する鹿児島県知事の意見への対応の概要について」

市：私（八板市長）としては、当市の意見も踏まえた県知事の意見に沿って真摯に御対応されたと受け止めた。他方、特に騒音については、西之表市上空を飛ばない対策、上空飛行への対応や非日常への不安を訴える高齢者等への配慮が必要である。騒音に対する不安の払しょくに向け、米軍に強く申し入れるなど、適切に対応していただきたい。

防：FCLPの実施に際しては、地域への影響を最小限にとどめるよう、その都度、米側に申し入れていくとともに、情報を関係地方公共団体に対し適時にお知らせできる体制を構築したい。また、市民の皆様からの問い合わせ等に対しては、西之表市と連携し、防衛省において責任をもって対応してまいりたい。

市：御説明のあった「複数地点での常時監視」について、ぜひ西之表市にも騒音測定器を設置していただきたい。また、環境監視調査の結果も踏まえる必要はあるが当該調査終了後の常時監視についても御検討いただきたい。

防：常時監視の場所については、複数地点で実施する考えであるが、具体的な場所については、西之表市を始めとする種子島に所在する関係地方公共団体の意向等を踏まえ、検討したい。また、環境監視調査終了後の騒音状況の把握については、当該調査の結果や関係

地方公共団体の意向等を踏まえ検討したい。

市：岳之腰について、主要な眺望景観における自然的な景観構成要素の消失の割合として0.02～0.43%にとどまると予測されていることである。しかし、岳之腰は、西之表市民の心の風景となっているものであり、数字的な、視覚の中の割合でというような表現は少し違和感がある。市民への心理的影響は無視できないと考えている。

防：岳之腰について、島のシンボルであり、文化遺産として貴重であるといった市民の声があることは、これまでお伺いしている。しかし、種子島に飛行コースがかからないように滑走路を配置する必要があり、改変せざるを得ないものである。御理解いただきたい。

市：FCLPの実施に際して、体制を構築することについては、よろしくお願ひしたい。岳之腰については、市民の強い思いがあることを改めて申し添える。

防：引き続き緊密に連携して対応したい。

「その他の意見交換」

市：工事中及び供用後に馬毛島基地（仮称）から発生するごみ（一般廃棄物）の処理については、どのように考えているか。

防：「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従い分別の上、島外に搬出し適正に処分するが、処分先については、今後、関係地方公共団体等と具体的な調整を実施したい。その上で、一般的に、防衛施設から排出されるごみを継続的かつ安定的に受け入れるため、ごみ処理施設の整備が必要となるなどの場合には、防衛省の補助事業として助成することも可能である。いずれにしても、現在、西之表

市において実施されているごみ処理に支障が生じることのないよう、引き続き西之表市と緊密に連携して対応したい。

市：西之表市内に整備する宿舍の水道計画は、どのように考えているか。

防：宿舍の詳細は決まっていないが、水道については、宿舍内で必要とする給水装置（給水管、止水栓、水道メーター等）の工事に応じた水道加入金を負担した上で市水を引き込んでいただく計画である。引き続き水道管理者である西之表市と緊密に連携して対応したい。

市：施設整備に際して、地元企業の受注の状況はどうか。

防：自衛隊施設の建設工事の発注では、地元企業の受注機会の拡大に取り組んでいる。馬毛島における自衛隊施設の建設工事においても同様であり、敷地造成等工事や汚水処理施設整備工事など、多くの西之表市内に所在する企業が受注している。今後の施設整備に当たっても、地元企業の受注機会が確保できるよう、引き続き対応したい。

市：施設整備に関連して、馬毛島の自衛隊施設の建設工事に着工していないと説明を受けているが、葉山漁港の浚渫や仮設建物の建設工事が含まれている管理用道路の進捗状況はどうか。また、当該仮設建物にはいつから入居予定か。

防：管理用道路工事について、本年1月に着手したところ、まずは、防衛省による管理用道路の整備工事に合わせて実施することを求める種子島漁業協同組合からの御要望にも沿うものであると考え、管理用道路工事の一環として、葉山漁港岸壁陥没箇所の修復工事を開始した。その後、仮設建物の資材の島内への運搬を4月から、島内の土地の改変を伴う管理用道路の工事を7月から、葉山漁港の浚渫工事を8月から開始し、鋭意工事を進めている。なお、仮設建物への入居については準備が整い次第予定しているが、現時点で入居時期は未定である。

市：市民からの要望がある地産地消については、どのように考えているか。

防：防衛省・自衛隊では、駐屯地・基地等の隊員の給食用に地元食材を調達するなど、地産地消の推進に努めている。また、地域の特色を共にアピールして地域の活性化につなげる取組も積極的に行っている。地域の名産や地元の食材を使用したレシピの作成、地元特産品と自衛隊のコラボによる地元特産物のアピール等を行っている。種子島の住民の皆様との交流を深めていきたいと考えており、今後、地元の皆様の御要望も伺いつつ、検討したい。

市：今後、多くの工事関係者が島内に入ってくるということで、ホテルの予約が困難な状況となることが予想され、観光の推進ができない懸念がある。また、治安についても心配する住民がいる。これらの懸念や心配に対する考えがあればお聞かせ願いたい。

防：そのような懸念があることは伺っているが、いずれにしましても、環境影響評価書の公告後の馬毛島内における工事の開始に合わせ、馬毛島内に宿泊用プレハブを整備することにより、多くの工事関係者の宿泊先を確保することとしている。また、工事に当たっては、地元の皆様と良い関係を築いていくことが重要である。受注業者を通じて、地元の方々への生活環境に対する配慮について、工事関係者に対し、周知徹底していく。

市：馬毛島小中学校に関しては、出郷者ら市民の愛着が極めて深い。防衛省に対して売却することとしたが、可能な限り保存作業を実施したいと考えており、撤去作業に着手するに当たっては、保存作業についてどのような対応が可能か、事前に協議することを改めて確認したい。

防：残せるものは残したいとお気持ちは理解している。保存作業については、撤去作業前の協議も含め緊密に連携して対応したい。

*協議の場の資料及び11月19、20日に開催した説明会で記入いただいた質問への回答を市ホームページに掲載しています。